

## 【資料紹介】日本の敗戦と児童の涙～疎開日誌から見る昭和20年～

今回紹介するのは、川崎市公文書館が複製資料として所蔵している「疎開日誌 昭和20年（川崎市中原国民学校疎開分団本部）」（整理番号：戦災資料373）という資料です。

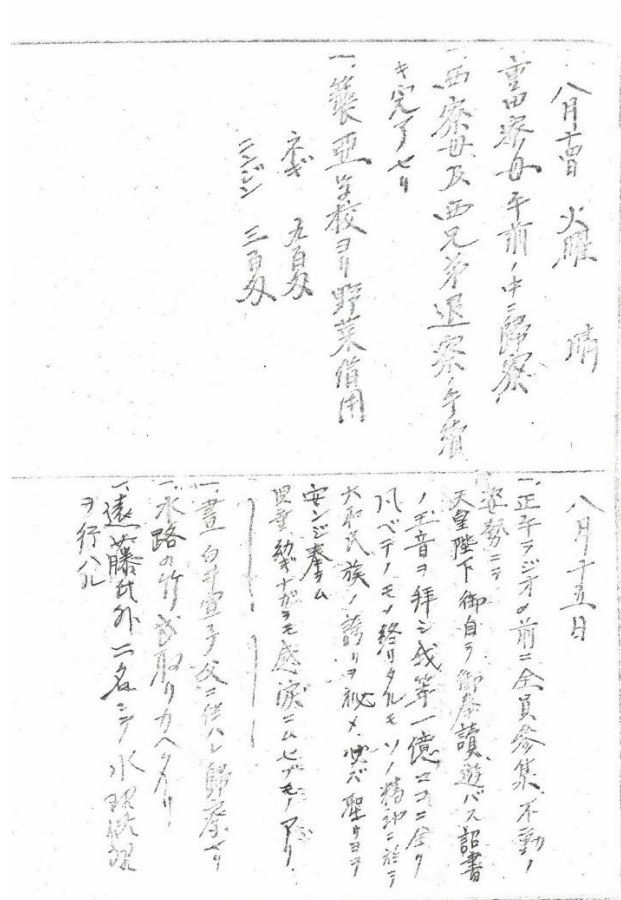
この資料は、中原国民学校が神奈川県下津久井郡へ学童集団疎開を行なっていた際の様子が見える日誌です。昭和49年（1974）1月に中原小学校の提供により川崎市公文書館で複製資料として所蔵に至りました。昭和20年（1945）5月2日～8月27日までの部分が閲覧できます。

昭和16年（1941）12月8日、日本は真珠湾攻撃を行ないます。

日本は勢いよく進撃していきますが、昭和17年（1942）6月のミッドウェー海戦での敗北によって劣勢に立たされることとなります。その後、ガダルカナル島からの撤退、マリアナ沖海戦での敗北、サイパン島での玉砕、など日本は制海権・制空権を失って追い詰められていきます。こうした中、日本本土への空襲を警戒して疎開などの政策が採られていきます。

昭和20年になると、戦禍はさらに大きくなっていきました。3月10日に東京大空襲、4月15日に川崎大空襲、5月29日に横浜大空襲がありました。川崎大空襲では、建物疎開実施によって空き地となっていた川崎市役所の前に多くの市民が避難したことで大勢の命が助かったと言います（宮崎初哉「建物疎開のあらまし」『川崎空襲・戦災の記録 戦時下の生活記録編』75～78頁、星野正孝「東田で二度の建物疎開」『川崎空襲・戦災の記録 戦時下の生活記録編』78～80頁）。

8月15日、「玉音放送」によって日本は遂に降伏を宣言します。



この時、神奈川県下津久井郡へ集団疎開をしていた川崎市中原国民学校の学童たちも整列して「玉音放送」を聴いていました。そのときの様子が「疎開日誌」から窺えます。以下にその記述を引用します。

八月十五日

- 一、正午ラジオの前ニ全員参集不動ノ  
 姿勢ニテ  
 天皇陛下御自ラ御奉読遊バス詔書  
 ノ玉音ヲ拝シ我等一億ココニ全ク  
 凡ベテノモノ終リタルモソノ精神ニ於テ  
 大和民族ノ誇リヲ秘メ必ズ聖リヨヲ  
 安ンジ奉ラム  
 児童幼ギナガラモ感涙ニムセブモノアリ

このように、「玉音放送」を聴いて涙を流す学童もいたようです。

今回紹介した資料は、2023年3月11日～5月7日に川崎市平和館にて開催された「川崎大空襲記録展」にて展示しました。今回紹介した資料以外にも川崎市公文書館には沢山の戦災資料を所蔵しておりますので、ぜひご利用ください。

<資料情報>

「疎開日誌 昭和20年（川崎市中心区国民学校疎開分団本部）」(整理番号:戦災資料373)

※閲覧・複写の際には利用申請書・複写申請書を記入頂きます。

[川崎市：歴史的公文書等の情報提供 \(city.kawasaki.jp\)](http://city.kawasaki.jp)